

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地	佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	平成30年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気の中で、決められたスケジュールではなく一人一人のペースや意思決定を尊重し、残存能力の活用をしながら和気あいあいと暮らして頂いています。それぞれの出来ることをお手伝いして頂いたり、一緒に買い物に行っています。季節の行事や見物、ドライブなど外出支援もしています。看取りにも力を入れ、それぞれの思う最期の時の迎え方を尊重し満足頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは川沿いの小高い岸に建てられた木造平屋作りで南向きのため明るい。また、眺望もよく、広い水面に泳ぐ水鳥など見ることができたり、周りの田畑の様子から季節も感じることができる。室内は清掃も行き届き、和風木調で統一し、床暖房を施すなど環境に配慮している。入居者は全員80代であるが、お元気で、介護度の高い一人を除き、自立歩行ができています。また、食事は旬の食材を使用し、献立も入居者の好みを取り入れるなど工夫し、殆どの全員が完食している。理念に「一人ひとりの個性を大切に和気あいあいとゆったり楽しく」という文言を掲げ、入居者の持つ能力を日々の生活に取入れ、職員は前向きな姿勢で、本人の意向を大切に介護に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関とリビングに掲げいつでも確認できるようにしている。しかし地域との交流までには至っていない。今後の課題であることを認識している	定時の会議の時など全員で理念の唱和を行い、内容の再確認をしている。また、管理者は入職時や日々の業務の中で、個別に面談し、理念の共有や実践に向けた取り組みに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月より地区の老人クラブに入って毎月の例会に出席しなじみの関係づくりを行った。7月にはイベントに3名の方に参加頂いたが、しかし継続が出来ていない。3月には老人クラブの敬老祝賀会に参加予定。	代表者・管理者は、地域との関係づくりを今後の課題としている。老人会の総会に入居者と一緒に参加したり、子供神輿のホームへの立ち寄り等の交流がある。しかし、地域との日常的な交流はこれからである。	地域の人が参加できるホーム行事の開催など、ホームに足を運ぶことができる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方との交流が希薄なため全く行っていない。今後は地区の方との関係づくりを行うことが課題であると認識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回定期的に行っているが地区の方の参加はなく、ご家族も関心を寄せてくださる方が少なく、参加者がゼロの時もあった。おたっしや本舗の方からの貴重な御意見を参考にしている。	年6回、開催している。家族や地域包括支援センター職員の参加がある。記録も整理され、参加できなかった家族へ議事録を郵送したり、職員に回覧することで、周知を図っている。民生委員等の参加には至っていないが、次回、老人会長の参加が予定されている。	老人会長等、地域住民の参加に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域連合とは事あるごとに連絡を取り、事業所の運営に関して細かく指導を頂いている。また、市役所や労働基準局にも相談している	職員は市町村主催の研修会に参加したり、ホーム運営のことに関して、必要に応じて関係機関に相談しており、協力関係の構築が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしない方針である。毎月行うスタッフ会議の中に勉強会を組み込んでおり、その中で身体拘束に関する勉強も行っている。日常の中でも身体拘束になりそうな事柄は注意をしている。	身体拘束はしておらず、日中の玄関施錠も行っていない。また、言葉掛けにも注意しており、入居者の行動の制限等、出来るだけしない様に努め、外部研修も参加している。しかし、全職員への内容周知は十分とは言えない。	職員間で研修資料やマニュアルなどを閲覧するなど、更なる身体拘束についての内容理解ができる取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	迷ったり、疑問に思ったら自分に置き換えて考えるように言っている。2月、3月に開催の高齢者虐待の研修を受講しスタッフにも勉強会の中で報告をする予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議の中で成年後見制度についての勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に行う契約時には丁寧にわかりやすく説明を行っている。又項目ごとに理解できたか尋ね納得されたことを確認してから次に進むようにしている。終了後もあやふやなところがあったらいつでも申し出てくださるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱のリニューアルを行い、職員やご家族にも知らせ、意見を寄せて頂くようにした。職員には利用者の隠れた声やご家族の愚痴など取り上げてくれるように言っている。運営に反映させより良い施設を目指している。	玄関には意見箱も設置し、家族には面会時に伝えたり、写真入りのホーム便りを郵送したりと、日頃の情報提供に努めている。また、本人との会話の中で意見の収集に努めて、出た意見は職員間で共有し、運営への反映を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何か決める時には、必ず職員の意見を聞き同意を得てから行うようにしている。個別に面談を行いそれぞれが持っている思いや課題、家庭事情などを把握しフォローしている。	月1回のスタッフ会議の時など、職員の意見を聞き取るように努め、内容は職員間で共有している。また、個人面談や適宜、声かけするなど、個別に意見を聞く機会を設け、出た意見はできるだけ運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルや働き方などを考慮した勤務形態をとっている。やりがいや向上心については個々を認めることや感謝の意を示すことなどを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した研修への派遣に取り組み始めたところであり、毎月の勉強会も自分たちから進んで取り組むことになり、嬉しいことである。まだまだスキルアップの余地があるので積極的に行いたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりを積極的に行っていきたい。他の事業所での有効な取り組みや工夫などの情報交換も行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時より本人様との関係づくりを行うようにしている。不安や要望を聞くことはもちろんのこと、生活になじんで頂けるような配慮をしたり、信頼を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたってご家族にお願いする事ははっきり伝え、また、それぞれの家庭の事情もくみ取り要望に添えないところはきちんと伝えている。信頼を得るようなかかわりを持つように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の状況をとらえ安心して生活が始められるようにアセスメントからプラン作成に力を入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者を一つの家族として考え安心して生活できるように、一人一人とのしっかりした絆をつくるようにしている。出来ることは役割として担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月1回は必ず来訪して頂くようにしている。スタッフは日頃の様子を伝えるようにしている。面会時には家族でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お元気だったころのなじみの場所を訪ねてみたらあまりの変わりように浦島太郎のようだと言われた。行きたいと言われたら何とか調整して行くようにしている。	知り合いも高齢になり、兄妹や遠い親戚などの訪問がある。本人の意向の聞き取りに努め、昔勤めていた場所など訪問するなど、馴染みの場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所初めはスタッフが間に入って仲間に入れるように気を遣っているが、うまくいっている時には見守っている。トラブルに発展しないように関係性にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後の関係性の維持は出来ていない。今後は関係性を絶たないような取り組みを行いたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方にはご自分の意思決定を尊重している。生活の中においても選択できるような関わりをしている。困難な方においてはスタッフがその方を思って決定したり、必要な場合はご家族に相談している。	入居者の半数以上が意思表示ができ、職員は日頃の関わりの中で入居者の意向の把握に努めている。また、本人が選択できるような声かけの工夫し、言葉と表情、仕草などから思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの生活歴や趣味嗜好、性格や生活習慣などの把握に努めている。入所後にもご家族の来訪時に情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より個性を尊重し自由に過ごせるようにしている。援助の必要な方には必要な部分においてのみの援助にとどめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフに1か月のケアプランの実施についての評価を求め、実施を続行するか、中止とするかあるいは代替案を考えるかなどをスタッフ会議で話し合い随時変更し、生きたケアプランとなるように取り組んでいる。	短期プランにあわせて担当者会議を開き、本人・家族、職員の意見の聞き取りに努めている。家族が不参加の場合には、意向の聞き取りと計画内容を伝え、同意を得ている。本人の現状に沿った支援となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは介護記録に残し、注意しなければいけないことやケアの変更等は申し送りノートに書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベント以外は毎日のスケジュールは組まずにその日その時で外出したり、レクをしたりして利用者の声を聴くようにしている。不穏な状態になられた時は買い物と一緒に行ったたりして気分転換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりが希薄なため地域資源の把握も出来ていない。今後の課題と認識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望される先生を選択できる。内科に関しては訪問診療医がおり、その医師に変更される方が多い。ドクターやナースとの信頼関係は出来ている。他の診療科についてはご家族に願っている。	かかりつけ医を継続することができるが、入居時の説明で、協力医療機関に変更する入居者が多い。協力医療機関は往診しており、24時間連絡をとることができ、必要に応じて適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門職としてのスキルを発揮してもらうようにしている。小さなことから報告、相談し指示をもらうようにしている。またその指示に従っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら落ち着いたところに面会し関係性の維持に努めている。その時に担当ナースやSWに様子を聞いている。退院時は日時の調整をして退院後の注意点を聞きスタッフに申し送りしたり、ケアプランの変更をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医よりターミナル期との判断をされたらご家族と一緒に主治医からの説明を聞き、最期のときをどう迎えるか、ご家族の希望を聞き本人の希望があればお伝えし、一緒にターミナルケアプランを作っている。事業所としても看取りには力を入れており、ご家族より感謝のお言葉も頂いている。	看取り支援をしており、事業所の方針について、入居時に説明を行っている。必要に応じて主治医と面談を行い、事業所での看取りを望まれた場合は、医療機関と協力しながら24時間体制で支援を受けることができる。家族の安心と共に、職員への負担軽減の配慮にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師がいれば看護師に、看護師が不在の場合はドクターコールにて指示を仰ぎ対応するようにしている。応急処置や初期対応に関しては全ての職員が対応できるレベルではないので今後のスキルアップにつなげていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風の時はすでに非難を実施した。火災や地震の際の緊急避難に関しては訓練の必要がある。	今年は事業所内で1回火災訓練を実施している。緊急連絡システムの導入を行い、防災に対する意識は高い。しかし、年2回の避難訓練の実施や地域住民への協力依頼についての取組みはこれからである。	今後、夜間想定を含んだ年2回避難訓練実施や、地域住民との協力体制の構築が望まれる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議の中の勉強会で取り上げているがすぐさま身につくことではないので、今後も繰り返し行っていきたい。築いたときはその場で褒めたり、注意を促したりしている。	自尊心を損ねない言葉掛けや対応を心がけ、気になる場合は、その都度、管理者より注意をしている。重要書類や記録などは、事務所で管理し、個人情報の取り扱いについて配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても選ぶことができるように関わっている。又コミュニケーションを図る中で思いや希望を表出できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一様に過ごすことは皆無で起床から就寝まで個性を尊重している。その人らしい生活が出来る。居室に閉じこもられることがないように適度に声掛けやお誘いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には自分で自由に選んで頂き、コーディネートに関してはスタッフがアドバイスするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を刻んで頂いたり、盛り付けや後片付け、食器洗いから収納までテーブル拭きや床掃除など個々の能力に応じてお手伝いをお願いしている。食事前にはメニューを紹介したり、嚥下体操にも取り組んでいる。	入居者の好みや、季節に応じた献立を取り入れたり、外食に行くなど入居者の楽しみとなっている。また、食事の準備や、後片付けなど、入居者ができることを一緒に行うことで、家庭での役割継続にもつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	プロテイン、ヨーグルトサプリ、ケミカルスープ、ココナッツオイルなど摂取され水分は食事がいで毎日2200ml摂られている。免疫力アップ、栄養の向上、便秘の改善につながっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夕食後に個別の口腔ケアは実施されている。朝、昼が出来ていないので毎食後に口腔ケアが出来るようにしていきたい。義歯の不具合や口腔内の不調の場合は訪問歯科に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個性に合った排せつ介助を行っている。おむつ類もスタッフ間で意見交換して最適なおむつを使用できるようにお試しでサイズの違うものを使ってみたりした。	本人の自尊心を傷つけない声かけや対応を心がけ、入居者の排泄パターンに応じて、トイレでの排泄を促すことで、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケミカルスープを毎食提供することで野菜を豊富に摂取できている。又水分を食事以外で日に2200ml摂取している。便秘の方には入浴時の腹部のマッサージや冷たい牛乳の摂取、歩行の促し等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけて入浴にお誘いするところから終了して送っていくところまで一人のスタッフで行うことでゆっくりのんびりと入浴することが出来ている。又希望される場合は同性介助にも対応している。	週2回、入浴している。本人の希望に応じて順番や時間の検討をしている。また、着脱や洗体、服選びなど、入居者ができることは自分でできるように促している。入浴中のコミュニケーションを大切に、本人の気持ちに寄り添った支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝起床は個々のリズムを尊重している。夜間眠れないときには無理に就寝を勧めず、スタッフと一緒にお茶を飲んでおしゃべりしたりして寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や効果、副作用など一目でわかるようにファイルを作りいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのある生活を優先しその方の得意分野を發揮できるように支援している。嗜好品を希望される場合はメニューに取り入れて楽しんでいただいている。おやつと一緒に作って楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や水汲みなど必ずどなたかをお誘いしている。イベントとして遠くまで出かけることもある。誕生日には行きたいところにお連れしている。家族と一緒に出掛けられる方もある。	季節ごとの花観賞に出かけたり、買物に行くなどの外出をしている。また、近所に花木があり、散歩のときの入居者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より少額の金銭をもらって自己管理されている方が2名いらっしゃる。外出した時に自分の財布から支払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば直接ご家族に電話を掛けることも支援しているし遠く離れた兄弟にお手紙を出される方もある。年末には年賀状を書いて頂きご家族に出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者の状況や関係性を考慮し配置している。もともと田園地帯の中にあり静かな環境である。カラオケ大会をすることもありスタッフも一緒に楽しんでいる。	室内は天然木が使用され、家庭的な温かさを感じることができる。建物は南向きのため居間、居室は明るい。また、建物の前に川が流れており、眺望もよい。床暖房を完備するなど、温度・湿度も管理しており、ゆったりと過ごせる空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに好きな場所で過ごされ、他者の居室で話されたり、ソファで語らう方、TVを見て過ごす方とそれぞれである。行動は自由であり、指示や制限することはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や大切にしてくられたものなど持ち込みを勧めているが持って来られる方が少ない。もっとその方らしい空間を演出してあげたい。看取りの方には状況に合わせた環境作りをしている。	居室への持ち込みは自由で、馴染みの物や思い出の品を持ち込むことができる。配置については、本人・家族の意向を尊重しながら、安全にも配慮するなど、居心地よく過ごるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の活用に力を入れており、それぞれの出来ることの維持にも取り組んでいる。個性を大切に本人の意思確認、尊重をしている		